
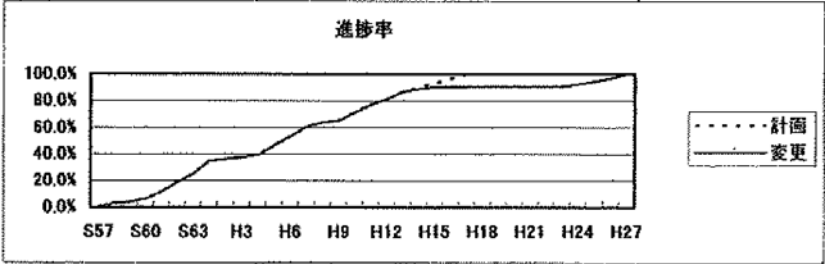


平成 23 年度再評価対象事業一覧表
(対象：平成 18 年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
理由等	再評価時点 H18	伊万里港 浦ノ崎地区 伊万里港廃棄物 海面処分場整備 事業 事業主体：県 事業地：伊万里市	現在伊万里港ではコンテナ貨物への対応や船舶の大型化、背後地域との良好なアクセスの確保のため、岸壁整備や航路・泊地浚渫、臨港道路の整備等を進めている。 当事業はそのような伊万里港の港湾整備に伴い発生する大量の浚渫土砂等に対し、 ・近接する処分地がなく、 ・海洋での処分は、処分地が遠いことから運搬費の面で不経済であり、 ・海洋環境への影響を考慮すると望ましくない。 以上のことから、港内で適正に処理するため、浦ノ崎地区に浚渫土砂等処理護岸を整備し、土砂処分地を確保するものである。	総事業費：C=265億円 工期：S57~H27 埋立護岸 L=4,160m 「Ⅰ期工区」 事業費：約109.3億円 工期：S57~H27 埋立護岸：L=2,950m 埋立量：V=4,145千m3 「Ⅱ期工区」 事業費：約155.7億円 工期：H3~H27 埋立護岸：L=1,210m 埋立量：V=4,776千m3	H17年度末事業費：約240.1億円 H17年度末進捗率：90.6% 「Ⅰ期工区」 H17年度末事業費：約109.0億円 H17年度末進捗率：99.7% 埋立量：V=2,473千m3 (59.7%) 「Ⅱ期工区」 H17年度末事業費：約131.1億円 H12年度末進捗率：84.2% 埋立量：V=370千m3 (7.7%)	事業を巡る情勢の大きな変化は見られない。	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C=2.0	(コスト削減) 作業船の効率的な使用による回航費の削減に努めてきた。	再評価実施後5年が継続	継続
	現時点 H23			総事業費：C=265億円 工期：S57~H32 埋立護岸 L=4,160m 「Ⅰ期工区」 事業費：約109.3億円 工期：S57~H21 埋立護岸：L=2,950m 埋立量：V=4,145千m3 「Ⅱ期工区」 事業費：約155.7億円 工期：H3~H32 埋立護岸：L=1,210m 埋立量：V=4,776千m3	H22年度末事業費：約240.4億円 H22年度末進捗率：90.6% 「Ⅰ期工区」 H22年度末事業費：約109.3億円 H22年度末進捗率：100% 埋立量：V=2,622千m3 (63.2%) 「Ⅱ期工区」 H22年度末事業費：約131.1億円 H22年度末進捗率：84.2% 埋立量：V=1,073千m3(22.5%)	・伊万里港では、近年公共事業の減少に伴い建設資材などの貨物量が減少している。 ・コンテナ取扱量については、若干の落込みがあるもののほぼ横ばい状態である。 ・現在、唐津港と伊万里港の取扱貨物量が伸び悩む中、両港で他港湾との競争力を高めるために3~4年を目途に2港統合を目指している。 ・また、臨海部の既存の工場団地の分譲が進んでいる状況の中で、浦ノ崎地区は新たな工業団地として地元からも期待されており、今後土地利用を検討していくこととしている。 ・この様に、伊万里港をとりまく環境が変化しており、今後、港湾計画の見直しが必要となってくる。	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C=1.3	同上	再々評価実施後5年が継続	継続 (理由) ・現在、七ツ島地区の岸壁(-13m)整備や航路・泊地(-13m)浚渫等が継続中である。 ・久原地区においては近年の船舶の大型化などに対応するために航路・泊地(-12m)浚渫を計画している。 ・今後、港湾計画の見直しを行うこととしており、それに基づき浚渫工事時期を判断し、工事を行う予定である。 これに合わせて本事業の護岸に着手することとしており、事業継続を行うものである。
	理由等			 <p>土運船による浚渫土砂搬入のため開口</p>	<p>・Ⅱ期工区については、浚渫土砂を運搬する運搬船が処分先に直接進入できる段階までは、外周護岸に開口部を設けておく必要があり、護岸の一部を残している。 ・今後は、浚渫工事の進捗に合わせて浚渫土砂等護岸工事を着手する予定である。</p>	 <p>進捗率</p>				